

授業改善プラン

教科（ 理科 ）

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。改善策として ICT の活用を導入するものは**太字**

	観 点	1 学期	2 学期		3 学期	小中一貫の 取組
		今年度の取組 昨年度の課題から	分析	具体的な改善策	改善プランの評価 来年度に向けて	
1 年 生	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はじめに復習を行う。 ・月に1回程度単元テストを行う。 ・実験器具の取り扱いの実技テストを行う。 	○定期考査では、平均で60%の達成率だった。	●引き続き、授業前の復習や単元テストなどを繰り返し行う。 すららを活用 し、家庭での学習習慣を身に付けさせる。		
	思考力・判断力 表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の考察のシェアリングや実験レポート、自由研究。 ・課題解決型の実験を行い、どのように取り組んだかプレゼン発表をやらせる。 	○定期考査では、平均で52%の達成率だった。 ○文章の読み取りや判断をする為の知識の整理が不十分だった。	●既習事項のまとめを行い、思考の流れを整理する。		
	主体的に学習に 取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・教室外でのフィールドワークを多く取り入れ、授業の内容を日常生活に関連付けて考えられるようにする。 ・生徒間での対話を促し、互いに教え合う授業展開を行う。 	○授業中積極的に発言する生徒が多い。自ら疑問をもって授業に取り組もうとしている。 ○授業評価では「授業によって興味や関心がわき、自ら学びたいと感じた。」という項目で「はい」または「どちらかというとはい」が100%であった。	●引き続き興味関心がもてるように、日常生活に関連付けた授業展開を行う。		
2 年 生	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はじめに復習を行う。 ・月に1回程度単元テストを行う。 ・実験器具の取り扱いの実技テストを行う。 	○定期考査では、平均で67%の達成率だった。	●引き続き、授業前の復習や単元テストなどを繰り返し行う。 すららを活用 し、家庭での学習習慣を身に付けさせる。		
	思考力・判断力 表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の考察のシェアリングや実験レポート、自由研究。 ・課題解決型の実験を行い、どのように取り組んだかプレゼン発表をやらせる。 	○定期考査では、平均で52%の達成率だった。 ○目には見えないミクロのイメージの理解が不十分であった。	● ICTなどを活用 し、目には見えない事象や抽象概念を視覚化してイメージできるようにする。		
	主体的に学習に 取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な物質を使った実験を取り入れ、興味関心がもてるようにする。 ・授業の内容を日常生活に関連付けて考えられるようにする。 ・生徒間での対話を促し、互いに教え合う授業展開を行う。 	○授業中積極的に発言する生徒が多い。自ら疑問をもって授業に取り組もうとしている。 ○授業評価では「授業によって興味や関心がわき、自ら学びたいと感じた。」という項目で「はい」または「どちらかというとはい」が85%であった。	●興味関心がもてるような題材や課題を選定し、学習意欲を高めさせる工夫を行う。		

授業改善プラン

教科（ 理科 ）

3 年 生	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はじめに復習を行う。 ・月に1回程度単元テストを行う。 ・実験器具の取り扱いの実技テストを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査では、平均で61%の達成率だった。 ●授業前のミニテストや復習を繰り返す行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、授業前の復習や単元テストなどを繰り返し行う。 すららを活用し、家庭での学習習慣を身に付けさせる。 		
	思考力・判断力 表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の考察のシェアリングや実験レポート、自由研究。 ・課題解決型の実験を行い、どのように取り組んだかプレゼン発表をやらせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査では、平均で36%の達成率だった。生徒の実態と定期考査の難易度に乖離があった。 ○小数を含んだ四則計算のやり方や文章を読み取り、立式する力の定着が不十分だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●類題を多く取り組み、文章を読み取り立式する判断力を伸ばしていく。 ●今後の生物分野では、ICTや表などを活用し、遺伝の法則や生殖の流れについてイメージできるようにする。 		
	主体的に学習に 取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・教室外でのフィールドワークを多く取り入れ、授業の内容を日常生活に関連付けて考えられるようにする。 ・生徒間での対話を促し、互いに教え合う授業展開を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業中積極的に発言する生徒が多く、今後も日常生活に関連付けながら学習に取り組ませていく。 ○授業評価では「授業によって興味や関心がわき、自ら学びたいと感じた。」という項目で「はい」または「どちらかという はい」が54%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●興味関心をもてるような題材や課題を選定し、学習意欲を高めさせる工夫を行う。 		

カリキュラムマネジメントの視点から

他教科の進度を互いに確認し、互いの教科での学習を繋げながら、指導を行っていく。